

# 広島・草戸千軒町遺跡 (第五・六・八次)

1 所在地 広島県福山市草戸町

2 調査期間 第五次 一九六九年(昭四)七月～九月、第六次 一九七〇年七月～一〇月、第八次 一九七二年七月～一〇月

3 発掘機関 広島県教育委員会

4 調査担当者 代表 松崎寿和

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代(中心は鎌倉・室町時代)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

第五次調査は、遺跡包蔵中洲の北東にあった小中洲(現在は消失)で行なわれ、町割の施設である柵・溝や一一基の井戸、土坑などを検出した。木簡は溝状遺構SX一一〇、井戸SE一一八から出土した。

第六次調査は、中洲の外縁部と東南にある小中洲を中心に行なわれ、一四基の井戸を検出した。井戸SE〇一六から板塔婆が出土した。

第八次調査は、中洲の北東部で行なわれ、各種の遺構が重複しており、直交する柵列、多数の柱穴、土坑、池、井戸などを検出した。木簡は池SG〇三〇から出土した。

SX一一〇 長さ九・五m、幅一m、深さ〇・五mほどで、埋土には土器類、簀状木製品、下駄などをはじめ、木簡が一六点(墨書のないもの三点を含む)とまとまって出土した。室町時代後半のものである。

SE一一八 一辺一mほどの木組方形縦板組横棧型井戸である。

井戸内の埋土の中に人形、曲物容器、漆塗用具などの各種の木製品が含まれており、木簡が一点、円形板らしきものに文字及び菊花文が記されたものが一点ずつある。室町時代前半のものである。

SE〇一六 一辺〇・九mほどの木組方形縦板組横棧型井戸である。井戸内の埋土には土器類や二点の板塔婆がある。室町時代前半のものである。

SG〇三〇 東西一〇m、南北六m、深さ一・五mほどの隅丸長方形の池で、途中で規模を縮小している。埋立に際しては上部に多量の小礫を投入している。木簡は埋土底部に三点ある。肥前系陶磁器類もあり、江戸時代のものである。

8 木簡の釈文・内容

SX110

(1)

〔芦カ〕  
田川  
二十二也  
米五表内

96×50×12 102

(2)

・ 三斗二升四合  
百四十六〔き〕

(109)×32×13 104

(3)

・ 二斗六升  
〔九カ〕

78×34×14 104

(4)

〔三斗一升  
〔百カ〕  
弥五郎

110×27×24 142

(5)

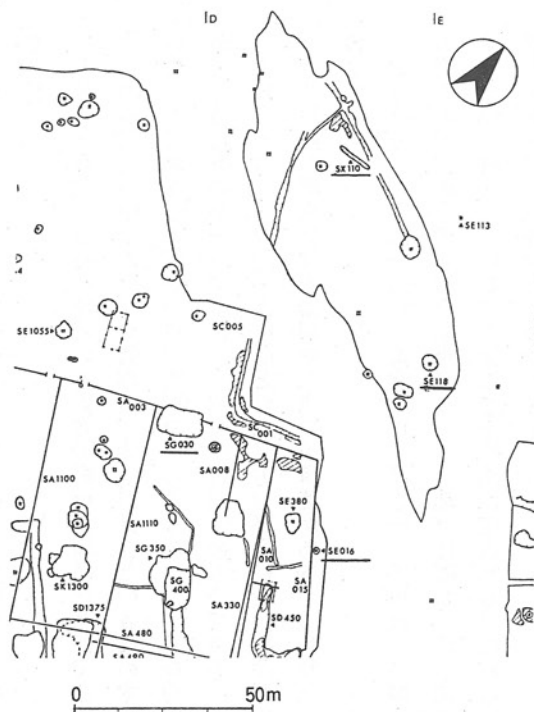
・ 十八弥六郎か  
〔百六十也

100×27×15 142

(6)

〔斗三升七合  
百十八  
〔る〕

124×39×15 102



(第5・6・8次調査区遺構図)

(7)

・ 此迄  
〔百カ〕  
七

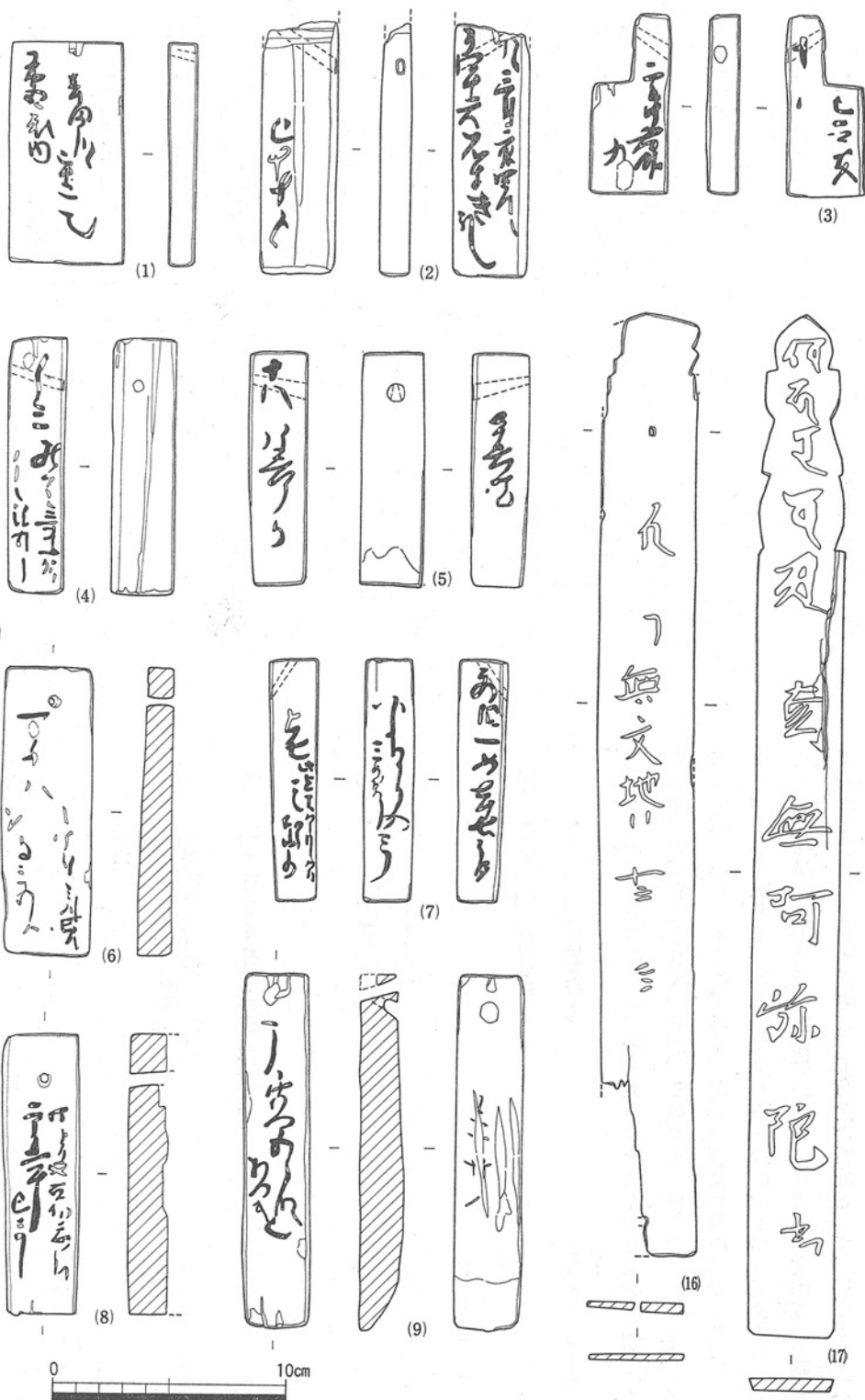
・ 半分から入  
三貫おろし三郎  
「この内一貫七十七うゑ」

104×21×21 142

(8)

〔二百六十  
三月〕

121×33×(19) 142





ろし」「うる」などが記されている。

SE〇一六の板塔婆は、ともに風化して文字が浮き出たもので、  
(46)には上下両端に釘穴がある。

なお、今回取上げたものは既に『草戸千軒—木簡—』で報告しているが、刊行の際には赤外線テレビカメラによる観察が終了していなかったこともあって、一部釈文を変更した。

## 9 関係文献

広島県教育委員会『草戸千軒町遺跡一九六九年度発掘調査概要』

(一九七〇年)

同『草戸千軒町遺跡一九七〇年度発掘調査概要』(一九七一年)

同『草戸千軒町遺跡一九七二年度発掘調査概要』(一九七三年)

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒—木簡—』(一九八二年)

同『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ—北部地域北半部の調査—』(一九九三年)

(下津間康夫)

## 木簡研究 第一四号

### 巻頭言

一九九一年出土の木簡

八木 充

概要 平城宮跡 平城京左京二条二坊坊間路西側溝 平城京東市跡

推定地 唐招提寺 藤原京跡 飛鳥池遺跡 四条遺跡 長岡京跡1

長岡京跡2 長岡京跡3 遠所遺跡 木津川河床遺跡 大坂城跡

住友鋼吹所跡 桑津遺跡 竜華寺跡 高槻城跡 堺環濠都市遺跡

屏風遺跡 長田神社境内遺跡 宅原遺跡 袴狭遺跡1 袴狭遺跡2

(旧坪井遺跡) 光明寺遺跡 西河原森ノ内遺跡 西河原遺跡 湯ノ

部遺跡 石川条里遺跡 内匠日向周地遺跡 小茶円遺跡 富沢遺跡

多賀城跡 円福寺遺跡 田道町遺跡C地点 上荒屋遺跡 山田郷内

遺跡 稻城遺跡 吉野口(鯉山小)遺跡 三門市遺跡 長登銅山跡

空港跡地遺跡(第3工区) 雀居遺跡 興善町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一四)

平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次) 上田部遺跡

郡家今城遺跡 郡家川西遺跡 じょうべのま遺跡 高瀬遺跡

考古資料としての古代木簡 山中 章

八幡林遺跡等新潟県出土の木簡 小林 昌二

木上と片岡 岩本 次郎

下級国司の任用と交通—二条大路木簡を手がかりに— 鈴木 景二

「敦煌漢簡」研究の現状と課題 吉村 昌之

彙報

頒価 四五〇〇円 千五〇〇円